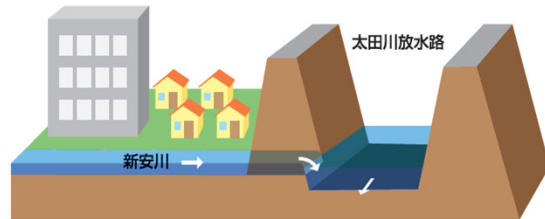


内水対策の方法

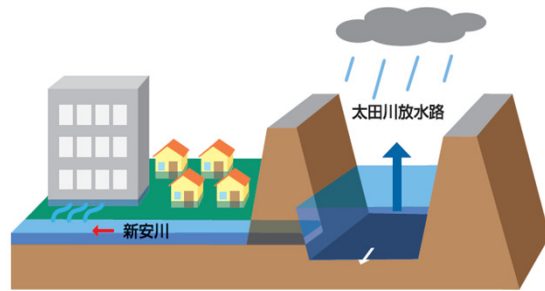
●通常時

通常時は、新安川の水位より太田川放水路の水位が低いため、新安川の水は太田川放水路へ流れます。



●洪水時

洪水が発生し太田川放水路の水位が新安川よりも高くなると、太田川放水路の水は新安川へ逆流します。

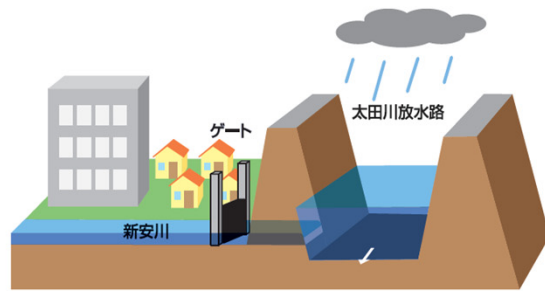


対策なしの場合

対策①：ゲートを設置

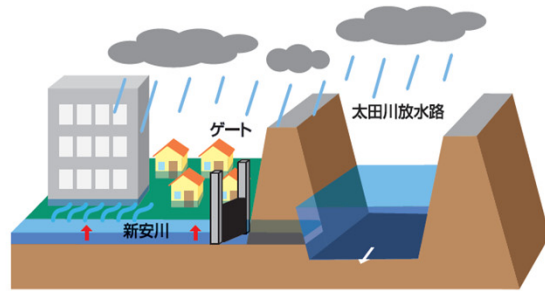
ケース1 新安川流域の降雨が少ないとき

新安川流域の降雨が少ないときは、太田川放水路からの逆流がゲートによって防がれることにより、被害は発生しません。



ケース2 新安川流域の降雨が多いとき

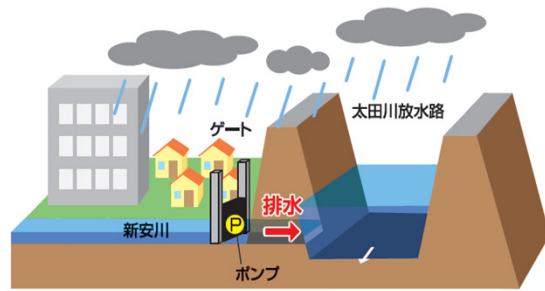
新安川流域の降雨が多くなると、新安川の水が行き場を失い、内水被害が発生します。



対策ありの場合

対策②：ゲートと排水ポンプを設置

ゲートが閉じられている時に新安川の水を太田川放水路へ排水できるよう、排水ポンプを設けます。



事業の効果

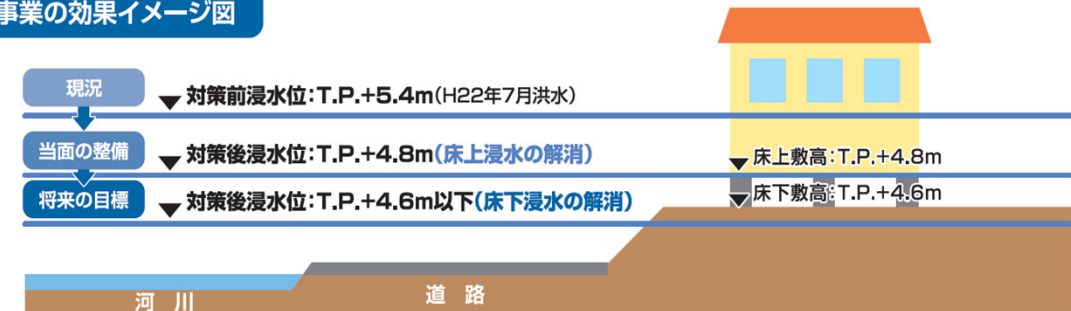
- 近年被害が発生した平成17年9月洪水や平成22年7月洪水に対して、浸水被害の再発を防止又は軽減します。
- 当面の整備として、新安川排水機場の排水ポンプを増強(排水量5.0m³/s⇒11.5m³/s)することで、内水をより効率的に排水して水位低下させ、床上浸水被害を防ぎます。
- 将来的には、県と市が連携して流出抑制対策を進めることで、さらなる水位低下を図り、浸水被害を防ぎます。

ハード対策

現状	整備状況	浸水状況
	新安川排水機場排水ポンプ 5.0m ³ /s	浸水位 T.P.+5.4m
	長束地区浸水対策(排水ポンプ) 0.28m ³ /s	
当面の整備	整備内容	効果
広島県の事業(当事業)	新安川排水機場排水ポンプ 6.5m ³ /s増設 (※既設ポンプと合わせ排水量11.5m ³ /s)	浸水位 T.P.+4.8m (床上浸水の解消)
広島市の事業	長束地区浸水対策(排水ポンプ等) 約1.0m ³ /s相当増設 (※既設ポンプと合わせ排水量1.28m ³ /s相当)	浸水位をさらに低下
将来の目標	広島市と連携して流出抑制対策を推進	浸水位 T.P.+4.6m以下 (床下浸水の解消)

※T.P.:東京湾平均海面からの高さを示すもので、標高を表します。

事業の効果イメージ図



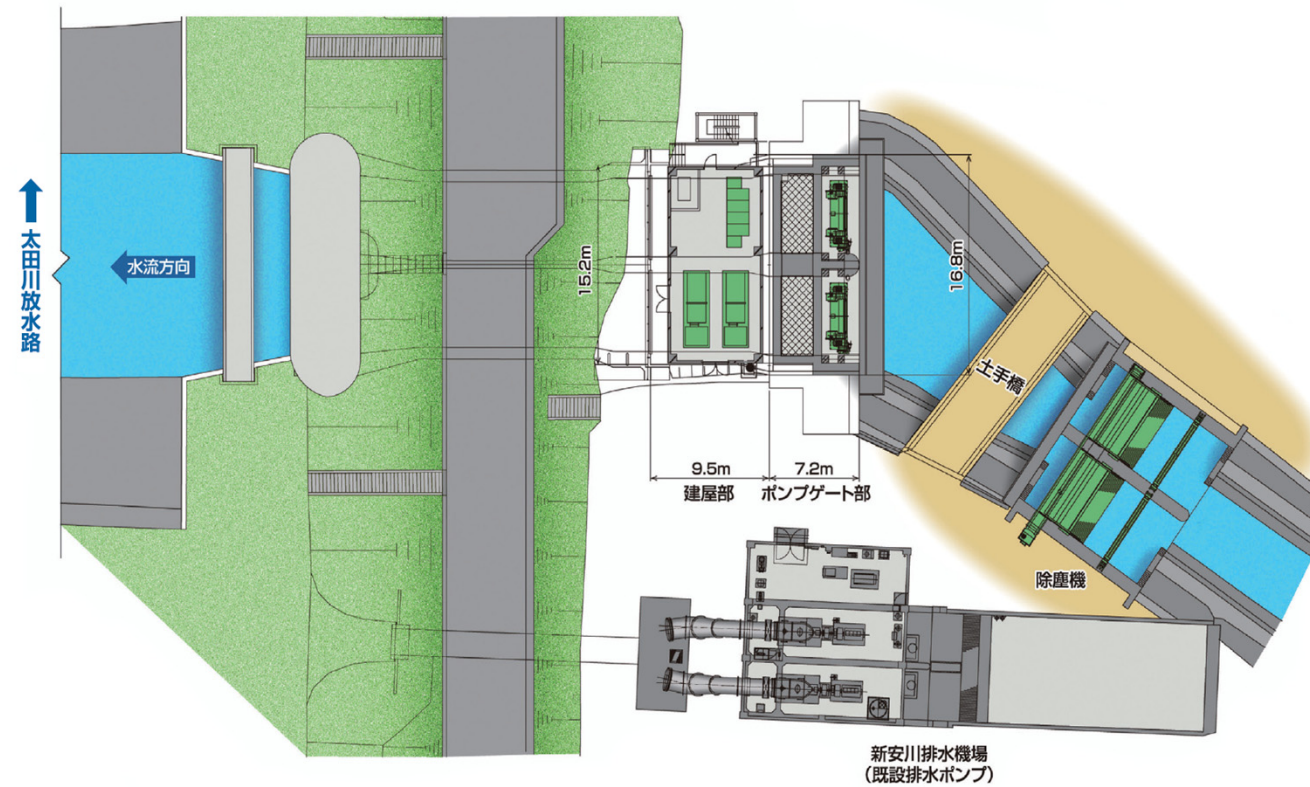
※敷高は、平成22年7月洪水で床上浸水が発生した地区を対象に実施した現地調査の結果に基づいています。

ソフト対策の推進

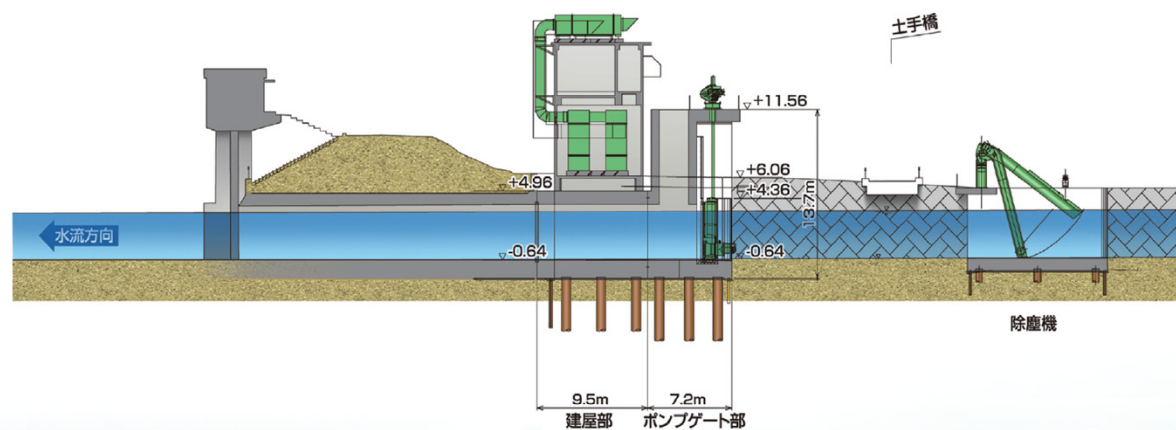
- 浸水被害防止のためのハード対策を着実に推進するとともに、以下のようなソフト対策の充実を図ります。
- ・ ポンプ稼働状況を知らせるサイレン・赤色灯等の設置
- ・ XバンドMPレーダー導入による詳細な降雨量分布の監視及び情報提供(試験運用)
- ・ 自主防災会組織の活動支援
- ・ 浸水被害(内水氾濫)対応マニュアルの作成
- ・ 排水ポンプ車等に関する連絡体制の確保
- ・ 浸水実績等の適切な情報提供及び助言

施設概要図

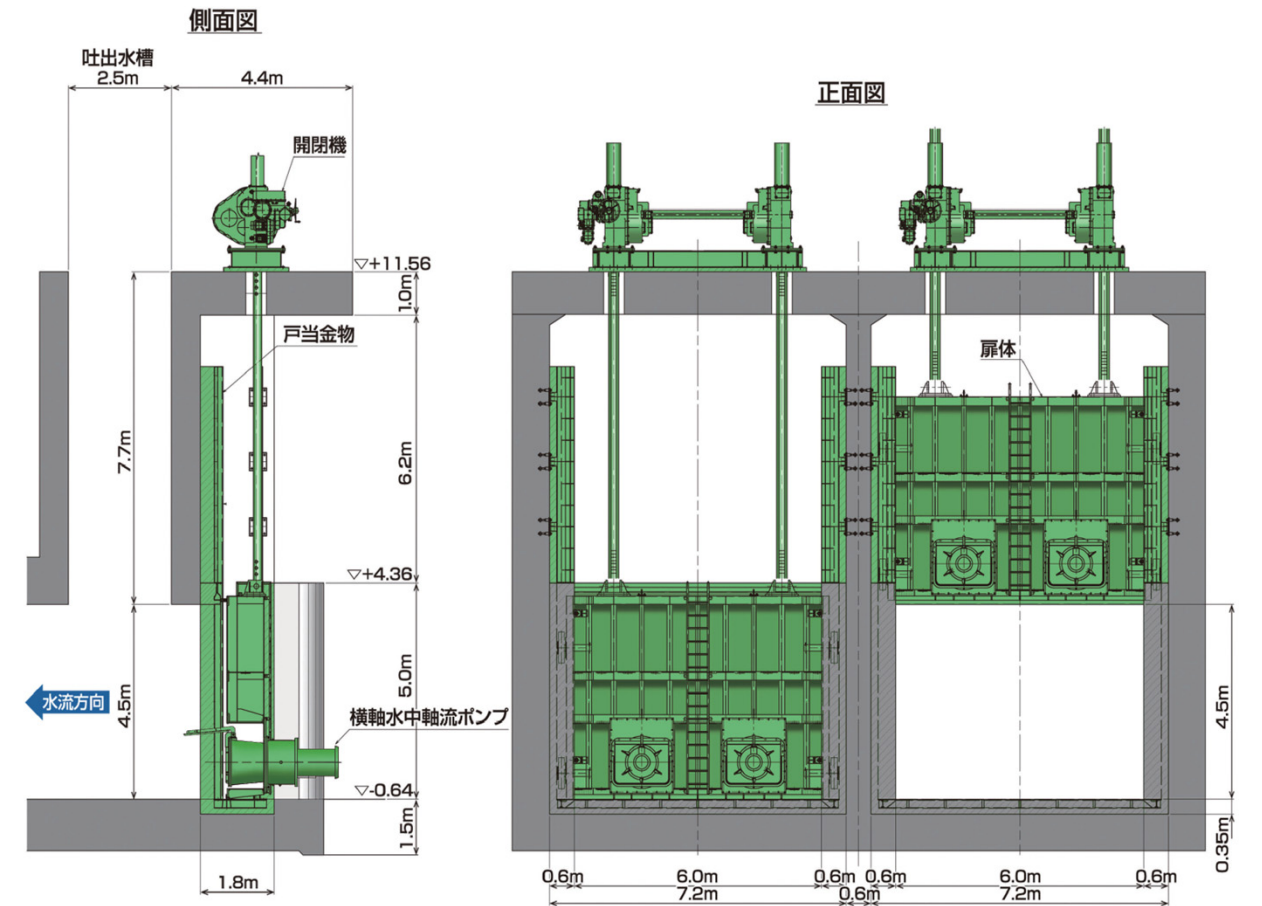
計画平面図



縦断面図



ポンプゲート全体図



ポンプゲート仕様

ゲート		ポンプ	
形式	鋼製ローラーゲート	形式	横軸水中軸流ポンプ
純径間×扉体高	6.0m×4.5m	口径	900mm
水密方式	前面四方ゴム水密	計画排水量	6.5m ³ /s
開閉装置形式	電動ラック式	仕様	1.625m ³ /s×110kW
門数	2門	台数	4台
主要部材	ステンレス鋼	主要部材	ステンレス鋼および鋳鉄

※ポンプ排水量の決定根拠
 増設されるポンプの排水量(6.5m³/s)は、近年の最大被害発生洪水である平成22年7月洪水に相当する規模の降雨に対して床上浸水被害を解消することを目標として、内水はん濫シミュレーション結果に基づいて決定されたものです。